

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や地域の方々の協力を頂きながら、一人ひとりの想いや要望に寄り添い楽しみも感じられる生活が送れるよう努めている。又、その方の持っている能力が継続でき生活のハリも感じることができるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000887-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの「グループホーム ふきのとう東館」は、小樽市街や石狩湾を一望できる高台の敷地に同系列の3ユニットのグループホームに隣接して建っている。開設して9年が経過し、地域の一市民として、多彩な取り組みを積極的に継続している。町内会行事や中学校の文化祭に参加する一方、法人合同の夏祭りには近隣住民を招待して相互に交流している。法人の別棟にある「活き活きホール」で行われている月2回のボランティアの催しも楽しんでいる。避難訓練と同日に開催した運営推進会議には町内会役員や多数の家族の参加を得て意見を交換している。ユニット毎に地震なども含めた自主訓練を行い、災害備蓄品類も整備している。入居前のかかりつけ医を継続し、通院の他、半数ほどの利用者はかかりつけ医の往診を受けるなど本人が安心して受診できる体制を整えている。また、家族の希望に沿って看取りケアを実施している。毎月のお便りで本人の様子もお知らせし、家族から喜ばれている。全員で自己評価表を作成し、マニュアルや研修資料、会議録、書類関係も充実している。介護計画の見直し時には利用者本人の希望を計画に組み込んで、その人らしい暮らしを温かく見守っている。

V. サービスの成果に関する項目(第1ユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時、地域の住民として過ごせるよう色々な橋渡しをしていること等は説明している。また、地域の敬老会、文化祭等の案内を受け、参加している。	理念にある個人の尊厳と、地域の一員として自立した暮らしを支えるという、基本的な考えを職員の採用時に説明している。ミーティングなどで理念を再確認し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りでは、神輿渡御に来て頂いたり、夏祭りや避難訓練には近所の方にチラシを配り、参加して頂いている。町内のゴミ拾いに職員が参加したこともある。	利用者は町内会の敬老会や健康講座に参加し、会館での催しを住民と一緒に鑑賞している。法人合同の夏祭りには近隣の方の参加を得て、カラオケ、潮踊りのイベントやバーベキュー料理などを楽しみながら住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で、日々の生活の関わり方等を説明したり、避難訓練などでは、実際に見学に来ていただくことで、認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業活動を報告し、意見を頂いている。グループホームの現状を説明し、理解して頂きながら、サービス向上に活かしている。	現状に即して必要なテーマを取り上げて会議を2か月毎に開催している。運営状況、行事、外部評価結果を報告し、防災について意見を交換している。議事録を家族に送付していないが、今後は家族アンケートを実施して、結果を運営推進会議に報告する方向で検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがある時は、電話等で親切に教えてもらったりしている。運営指導時の助言等は、サービスの取り組みの参考にしたこともあった。	介護保険関係や障がい者手帳の書類で分からない時には、市に出向いて各課の担当者に相談している。運営指導担当者の助言があった時は参考にしてサービスに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、以前より取り組んでおり、職員全員が周知していると思われる。	外部研修で身体拘束について学び、参加した職員は各ユニットで報告し、研修内容や資料を回覧して全職員が共有できるようにしている。禁止語やイントネーションの語尾で言葉の抑制にならないよう注意している。身体拘束禁止の具体的な行為については更に理解を深める意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加し、ミーティングにて職員全員で勉強し、虐待防止を徹底する。意見箱を設置し、職員間で言葉使いや入居者様への対応を意識しあえるようにしている。権利擁護委員会を開き、虐待防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各研修にて学び、ミーティングで話し合い実行している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、都度質問があれば答えている。入退院を繰り返したご家族から、確認された時もあった。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からの要望を聞き入れ、実施可能なことについて反映させている。	利用者が繰り返す言葉に注意し、意味や思いを話し合い、可能な限り希望に沿って対応している。家族の来訪時にケアについて相談し、意見を聞いている。家族との話し合いや意見などを支援経過に記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やユニットの懇親会で(半年に1度)意見を聞いている。入居者様の食事や電化製品の交換について反映させている。	ミーティングや申し送り時に意見を出し合い、現場の意向が反映されている。ケアマネージャーは職員採用の3か月後に新人研修で個人面談を行っている。また必要に応じて所長が個人面談の機会を設けて相談に乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力や勤務状況を把握しながら、より以上のレベルアップや向上心が持てるよう、研修会参加や役職への促しにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に行き、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム協議会が実施している相互訪問研修や研修で、交流する機会も増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学时に時間が合えば、唄や体操にも参加して頂き、少しでも入居者様が安心して穏やかに生活していけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個々のニーズに対応し、ご家族様と何でも話せるように信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にカンファレンスを行い、援助計画書を作り、ご家族に説明し要望を伺うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とコミュニケーションを図り、お手伝い等、声掛けを行い、入居者様の役割として共に支え合う関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り・イベント等にはご家族様も一緒に参加されたり、月1回のふきのとう通信にて、近況を報告。来訪時にも最近の様子などを伝え、入居者様と共に支え合うご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様に知人・友人からの電話や面会があれば、取次ぎ、通院や美容院の帰りには、行きつけだった市場などに買い物に行かれています。	食べたい食品や洋服などの買い物で、職員は馴染みの店に同行している。親族で恒例の温泉宿泊に、外泊してきた方もいる。馴染みの人や場所での楽しみを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの会話を楽しまれたり、仲良くゲーム等に参加して頂いている。時々、入居者様同士の部屋を行き来され、お話を楽しまれている。時には職員が間に入り対応することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要で、退居となった方へも、面会に行き顔を見に行っている。亡くなられた入居者様のご家族にもご家族の要望にて、夏祭りの案内を送り、来て頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出・買い物・散歩など、できるだけ要望に応えるようにしている。2か月に1度は、出前寿司やお寿司ツアーに外出し、皆様に喜んでいただいている。	意思表示が困難な場合には、普段と違う仕草や表情から思いを汲み取っている。生活歴などを「バックグラウンド」に記録し、新しい情報は介護計画の見直し時に「課題分析」で蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ユニットミーティングの中で、今までの生活歴や趣味などを追いながら、援助計画を作成している。昔、刺し子をしていた方に布巾縫いをお願いしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に、その日の様子を残し、毎朝の申し送りや気づきの点を話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを行い、意見やアイデアを出し合って介護計画の見直しなどを行っている。	計画作成担当者を中心に毎月目標に沿って確認し、3か月毎に評価、モニタリングを実施している。6か月毎に「課題分析」と「課題整理」を作成して介護計画を更新し、内容を説明している。介護計画を意識し日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や言動・表情や体調の変化などを、毎日個人記録に記入し、他職員が把握し、情報を共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院外出後に買い物や外食に行ったり、要望に応じて週に2回、晩酌を楽しまれるなど、ニーズに対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に1度、近隣の中学校文化祭を見に出かけている。避難訓練や夏祭りには、ご近所の方が一緒に参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院や、必要に応じて適切な医療機関へ受診できるよう、ご家族とも相談しながら対応している。	可能な限り、かかりつけ医を継続し、通院に職員が同行し各主治医と関係を築いている。利用者の半数ほどは、かかりつけ医の往診を受けている。受診結果を支援経過の別紙に記録して共有し、必要に応じて家族に連絡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関することは、看護師と連携を持ち、入居者が適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医に相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調を崩した時は、早期に治療が受けられるよう、相談できる体勢を整えている。入院になった場合にも、面会や相談を通し、情報を得て、退院時にすぐに対応できるよう、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医との話し合いの上、ターミナルケアが必要になった場合について、事前に話し合える場を設けている。入居契約を交わす段階で、重度化した際の意向について伺い、当施設で対応できることを伝えている。終末期を迎えた時には、看取り対応について再度話し合い、希望されるご家族にはご家族の同意を頂いている。	利用開始時に重度化や看取りの指針を説明し、確認書を得ている。状態の変化に応じて関係者で対応を話し合い、看取りの希望がある場合は、さらに同意書を交わしている。現在、看取り中の方もおり、勉強会で看取りケアを学び、家族、職員間で密に連携をとりながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の避難訓練の際に、AEDの使用方法や救命救急訓練を消防の方から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は施設全体の避難訓練を実施(昼と夜間を想定)。それ以外にもユニット独自で避難訓練をしている。訓練の際は、消防の指導や地域住民の方にも協力を頂いている。毎月1回、火元責任者会議を行い、災害対策を意識できる体制を整えている。	消防署立会いの下で家族、町内会役員、地区の消防団、近隣住民の参加を得て避難訓練を行い、参加者にアンケートを依頼し、次回の訓練に活かしている。ユニット毎の自主訓練で、地震などの災害も想定し、対応や安全面を確認している。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握しながら、都度言葉かけに注意している。馴れ合いの言葉にも注意している。	利用者の呼びかけは名前に「さん」づけとし、権利擁護委員会を中心に勉強会等で定期的に接遇や言葉かけを学んでいる。個人記録は記録スペースで行い安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望に合わせた美容室外出や、買い物の要望にできる限り自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい方についても、選択肢を用いながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや要望に合わせて、日々の暮らしを支援している。個々の希望にできる限り添えるよう、お話を聞き対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回、同じ服にならないように気を配り、要望のある方に意見を聞きながら、一緒に服選びをしている。美容室にてパーマや毛染めをされている方もいる。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、おしぼり洗いや食事の盛り付けなどをお願いし、行ってもらっている。食器拭きは、自らすずんで行ってくれる方もいる。	利用者の希望や季節を反映した献立を作り、下ごしらえや下膳、食器拭きなどを利用者が手伝っている。職員も会話しながら同じ食事を摂っており、外食や出前も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日記録し、食事量の低下している方に対し、医師との相談で栄養補助剤の対応を補ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方に対しては、毎食後、口腔ケアを行っているが、自立している方に対しての口腔ケアはあまり実施できていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯は安眠障害にならないように注意しながら、個々の排泄リズムに応じて声掛け誘導を行っている。排泄記録をつけながら、個々の状態把握に努めている。	個人記録に排泄状況を記録し、パターンを把握して必要に応じて誘導している。声かけの際は耳元で行うなど羞恥心に配慮している。夜間もできるだけトイレでできるよう利用者の状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食時にはバナナヨーグルトを提供している。また、医師の指示で下剤を服用している方もいるが、それでも困難な方には、お腹を温めるメント湿布や腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は、個々の希望通りに週2回のペースで入浴できている。入浴を嫌がる方も、本人が納得される日に入浴して頂いている。	イベントの日以外は毎日入浴可能で、午後の時間帯で各利用者が週2回の入浴を確保している。拒否がある場合は日にちや時間をずらすことで入浴が実現できている。必要に応じて2人による介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中もリビングで居眠りをしているのを見かけた際には、自室でゆっくりと休んで頂いているが、夜間の安眠障害にならないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を確認しながら、用法・目的等を理解している。必要に応じて薬局に相談しながら指導を頂くこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調を考慮しながら、役割分担を行い、お手伝いをお願いをしている。布巾縫い・洗濯畳み、新聞畳みなどできることをお願いしている。散歩なども支援している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度はユニット行事を設け、花見・紅葉・食事ツアーなど外出できる機会を設けている。個別要望の買い物外は、行ける範囲で近くのスーパーや市場へ出かけている。ご家族にも協力を得て、外出や外泊をされる方もいる。	普段から事業所の向かいの公園などで外気浴を行っており、個別の通院や買い物で出かける機会も多い。月2回の外出行事を設定し、買い物や花見、紅葉狩り、外食などに出かけている。冬でも近くの大型ショッピングセンターに車で出かけ、買い物や食事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の額を管理されている方もおり、買い物に行った時などに直接支払いをされている。「お金大丈夫かい?」と心配される方には、家族から預かっていることを伝え、安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・親戚・知人との電話のやり取りがあり、要望に応じて、電話でお話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットが明るい雰囲気になるように、飾りつけを行い、季節ごとに壁紙作りを行い、季節を感じてもらっている。テーブルには季節の花も飾っている。その時々の入居者様の状況に応じて席替えをしながら、居心地良い空間作りを心がけている。	共用空間は家庭的で、壁には職員と利用者が一緒に作った装飾や行事の写真が豊富に飾られている。丘の上にあるため窓からは遠くに日本海を眺めることができる。明るさや温度も快適に過ごせるよう保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室があるため、居室やリビングで過ごされている。時には、個人の居室に他の入居者さんを招き入れ、談話されるなど、思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで過ごされていた家から、使い慣れていた物を持ってきていただいたり、家具やソファを持参して頂いている。	各居室の入口には個々の暖簾と表札がある。室内には利用者がタンスやテレビ、鏡台など馴染みのものを持ち込んでおり、壁にもカレンダーや時計などを好みに応じて設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように、張り紙をしたり、転倒防止のため、ベッド柵に鈴を付け、音で訪室できるよう工夫している。入浴時でもできることは行って頂き、出来ない部分を介助している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホーム ふきのとう東館		
所在地	北海道小樽市桜1丁目27番57号		
自己評価作成日	平成26年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「第1ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0172000887-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(第2ユニットアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時にしっかりと勉強をし、どの様なグループホームか理念を共有し、日々意識するよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の避難訓練の際に、気持ちよく協力して頂いており、夏祭りにも楽しんで頂いている。中学校の文化祭にも声をかけて頂き参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組み、また、認知症への支援を説明する。避難訓練の時は、町内の方に実際に動きを見て頂く。町内のゴミ拾いにも参加している。高校生の職業体験も受け入れたこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の定期開催で、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行い、意見を頂いた時は参考にさせてもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことがある時は、電話等で親切に教えてもらったりしている。運営指導時の助言等は、サービスの取り組みの参考にしたこともあった。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、身体拘束はしていない。もし必要性がある時でも、色々な意見を言い合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	色々な研修に参加し、ユニットミーティングにてヘルパー同士で話し合い、お互いに注意し合えるよう、方向性を統一させ虐待防止に努めている。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の自立支援をもとに、ケアプランを作成し日常生活の支援を行っている。「福祉サービス利用援助事業」の勉強会の中で、後見制度についてもふれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を一つ一つ説明しながら、質問等を受け、理解・承諾を頂いている。改定時にも都度同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、契約時に説明している。日頃から入居者様・ご家族からの要望を聞き、改善等があればユニットで話し合い対応している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングに管理者も参加して、意見を聞く体制を作り、現場職員の提案・困っている事などに対応している。備品の交換や入居者様の食事内容について検討した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や役職手当などで職員の意欲向上につながるよう、体制を整えている。資格取得の希望がある職員には、勤務の調整などで希望に添えるよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会やその他の研修にも参加できるように、案内を出したり、経験年数に応じた必要な研修には個々に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で毎年実施されている相互訪問研修に月1回参加し、交流を深めたり、業務内容等の向上に反映されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の認知が進行するにつれて訴えることは難しくなっている中で、出来るだけ意思を汲み取り対応できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の来訪時に常に状態を説明する中で、疑問等があれば返答していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に話を聞きながらアセスメントし、入居時に必要とする支援のケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仮の家であることを念頭に置きながら、共に支え合えるように、出来ることのお手伝いをお願いしている。コミュニケーションを通し、昔の話や参考になる話を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時は、居室で家族間で話す時間を作ってもらっている。状態によっては、ご本人の代わりに代弁してご家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知の進行で少しずつ物事を忘れていく方にも、出来るだけ昔を思い出して頂けるような会話を工夫している。ご家族・友人・知人に会う際には、職員が橋渡しをすることもある。入居前に行っていた美容室や病院との繋がりを大事にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの個性を認め合い仲良く生活できるよう、間をとりに持っている。大声を出す入居者様に対しても、仲間として周囲が受け入れてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居などの際には、お見舞いに行くなどご家族からの相談を受け対応している。入院のため退居された方のご家族が遠方のため、週に1度位面会に行き、亡くなられた時はご家族より手紙を頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定等が困難になってきている方が増えているが、入居者様の意向や希望を聞きながら、出来る限りその要望に添えるよう、カンファレンス等で話し合い対応している。要望を聞き、嗜好品を代理購入等している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで暮らしていた習慣や生活歴をご家族等に聞きながら、出来る限り要望に添えるよう努めている。居室で仏壇に手を合わせたり、お供えをしたり、ご本人の生活習慣に添った支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する力を大切に、出来る限りの能力を発揮できるようアセスメントを行い、ご本人の持っている力に合わせて見守りケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、医療機関からのアドバイスなども参考にしながら、ご家族のご協力を頂き、意見や要望を交え、介護計画書に盛り込めるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子等を記録し、通院や特別なことがあれば、支援経過にも記載して記録を共有し、支援に活かしている。細かい申し送りについては、日報に記載し引き継ぎを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の個性を見極めて、過ごしやすい毎日を送られるよう、柔軟な対応をしている。当日言われた外出等にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々に、夏祭りや避難訓練等にご協力を頂き、参加して頂いている。近隣中学校の文化祭や町内の敬老会にも招待を頂き参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診できるよう、ご本人・ご家族の希望に添い対応している。通院を拒否される方には、往診を受けられるよう、ご家族にも説明し了解を得ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り等で看護師とも情報を共有し、時には指示を仰いだりしている。看護職員不在時も、日報等を活用し、後日相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に、入院された入居者様の状態を常に確認し、いつ退院されても良いように居室を維持している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月1度のミーティング等で状態の変化を職員間で話し合い、ご家族・主治医に相談しながら対応について検討している。食事がとれなくなった方が、ご家族と話し合い、病院に入院した方がいた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の心肺蘇生・AED訓練のほか、急変時のマニュアル等を作成しており、焦らずに対応できるよう勉強会などで話し合いをしている。各居室には異常時の連絡先等の貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、各ユニット毎の訓練も行い、近隣の方々にも訓練時に見学して頂き、協力を頂いている。夜間を想定した訓練も実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の性格をできるだけ把握し、必要に応じた声掛けをしている。特に排泄介助等は声掛けなどに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の嗜好をできるだけ把握し、選択・自己決定しやすいよう、考えて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助が必要な方が多くなり、朝は、少し早いペースで職員の都合を優先させている時間帯もあるが、それ以外は入居者様のペースに合わせた声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選択できる方については、着たいものを見ながら選んで頂く。ご自分で選ぶのが難しい方は、本人の嗜好をできるだけ理解し選んでいる。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの飲食物を伺い、提供している。食事ツアー等の外食や食事会等で好みのビール等も提供している。食事準備では、野菜の皮むき等のお手伝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を記録し、栄養・水分量の適量接種の支援をしている。栄養が不足と思われる場合には栄養補助食品を主治医と相談の上、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助をしている。就寝時は、義歯洗浄剤で浸け置き洗いをしている。口腔ケア研修があれば参加し、口腔ケアの大切さについて話し合っている。口腔ケアブラシを活用している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、声掛けしながら、失敗が少なくなるよう、同行している。立位保持が可能な限り、トイレで排泄できるよう対応している。失敗をしても自尊心を傷つけないよう声掛けし取り替えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が二日以上ない日が続く時には、主治医に相談しながら下剤の調整をおこなっている。要望時には牛乳を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番の希望等に沿うようにしている。入浴拒否の方に対しては、声掛けを工夫し、週2回の入浴を確保している。入浴が楽しくなるよう、入浴中の会話や歌を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠そうな方には声掛けし、居室で休んで頂いたり、リビングのソファで横になって頂く対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をいつでも確認できる場所に保管し、職員全員が周知できるようにしている。主治医からの服薬指示をノートに記載し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日光浴の希望や、ウォーキングの支援等、都度要望に応じられるようにしている。イベント時は好みのビールなどを嗜めるよう、提供している。		

グループホーム ふきのとう東館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴を希望される方がおり、見守り支援している。日常的な外出は少ないが、お花見や食事ツアー・水族館など、外出行事を設けている。入居者様の外出意欲が低下し、工夫している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、お店でパンや飲み物を選び購入されている方もいる。買い物の機会があっても、あまり要望される方が少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親類の方と、お手紙や電話のやりとりができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節感が感じられるよう、行事の写真や飾りで工夫している。窓際にはご家族から頂いた花を飾り、入居者様がお水をあげることもある。 トイレ空間は、効率良い業務ができるようにしつつ、カーテンで覆い清潔な空間になるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで横になったり、居室で休まれたり、思い思いの場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具等をお持ちいただいたり、ご家族やペットの写真、好きな歌手のポスターを飾り、居心地の良い空間を持てるよう、ご家族にも協力を頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせて、安全に生活できるように、室内環境を整理している。ドアや布団に鈴を付けて、動きを察知し、転倒の危険を回避している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう東館

作成日：平成 26年 12月 1日

市町村受理日：平成 26年 12月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	ふきのとうの運営に関し(運営推進委員会も含め)、ご家族の意見を伺う機会が少ない。	少しでもご家族の意見を参考にしながら運営の(職員の質、環境等も含め)、さらなるスキルアップを図りたい。	年に一度位、各ご家族に無記名のアンケートを送付し普段、口頭では言いづらいご意見を伺いたい。又、来訪時の気になる言動を今までどおりに支援経過に記載するが、赤線等で印をつけておき定期的にご家族の意向や意見を検討したいと思っている。	平成27年度中
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。